

**【表紙】**

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年8月12日
【四半期会計期間】	第122期第1四半期（自平成28年4月1日至平成28年6月30日）
【会社名】	わかもと製薬株式会社
【英訳名】	WAKAMOTO PHARMACEUTICAL CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役会長兼社長 神谷 信行
【本店の所在の場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号
【電話番号】	(03)3279-0371(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 増田 康彦
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号
【電話番号】	(03)3279-0371(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 増田 康彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第121期 第1四半期 累計期間	第122期 第1四半期 累計期間	第121期
会計期間	自平成27年 4月1日 至平成27年 6月30日	自平成28年 4月1日 至平成28年 6月30日	自平成27年 4月1日 至平成28年 3月31日
売上高 (千円)	2,818,346	2,885,651	11,183,262
経常利益 (千円)	144,762	130,891	124,895
四半期(当期)純利益 (千円)	90,095	85,422	20,512
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	3,395,887	3,395,887	3,395,887
発行済株式総数 (千株)	34,838	34,838	34,838
純資産額 (千円)	14,104,221	13,719,946	13,954,822
総資産額 (千円)	18,850,591	18,036,975	18,283,340
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	2.59	2.46	0.59
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	3.00
自己資本比率 (%)	74.82	76.07	76.33

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

3. 従来、ロイヤリティーに関する受取技術料は「営業外収益」に計上しておりましたが、第121期第3四半期累計期間より「売上高」に含めて計上することに変更いたしました。第121期第1四半期累計期間の売上高については、遡及処理後の数値を記載しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の概況

当第1四半期累計期間における医薬品業界は、引き続き医療費抑制策の基調は変わらず、また、一般用医薬品市場も低迷が続いており、厳しい環境下で推移いたしました。

そのなかにあって当社の医薬事業では、主力製品である眼科手術補助剤・硝子体内注用副腎皮質ホルモン剤「マキュエイド硝子体内注用40mg」、アレルギー性結膜炎治療剤「ゼペリン点眼液0.1%」、水溶性非ステロイド性抗炎症点眼剤「ジクロード点眼液0.1%」、緑内障・高眼圧症治療剤「リズモンT G点眼液」および主力製品として育成すべき重要な製品の緑内障・高眼圧症治療剤（特許を持った後発品）「カルテオロール塩酸塩L A点眼液」、「ラタノプロスト点眼液0.005% N P」に加えて、乳酸菌製剤の「レベニン錠」シリーズ、業務提携先との共同販売品である医家向けサプリメント「オキュバイト」シリーズ、A型ボツリヌス毒素製剤「ボトックス注用」、ドクターズサプリメント「オブティエイドDE」の販売促進を行ってまいりました。

薬粧事業では、主力製品である「強力わかもと」に加え、エビデンスに基づき口臭予防を訴求した薬用歯磨き（医薬部外品）「アバンビーズ」シリーズ2製品および「わかもと菊花ポリフェノール」（健康食品）の販売促進を行ってまいりました。

特販事業では、国内向けに医薬品原料の販売と他社受託品を、海外向けに「わかもと」、原料薬品および点眼剤の製造販売に努めてまいりました。

その結果、当第1四半期累計期間の売上高は28億8千5百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益1億2千5百万円(前年同期比1.0%減)、経常利益1億3千万円(前年同期比9.6%減)、四半期純利益8千5百万円(前年同期比5.2%減)となりました。

セグメント別の売上高の状況につきましては、医薬事業では長期収載品である「ジクロード点眼液0.1%」、「ゼペリン点眼液0.1%」、「リズモンT G点眼液」が減少いたしました。また、「マキュエイド硝子体内注用40mg」、「カルテオロール塩酸塩L A点眼液」、「ヒアルロン酸Na点眼液0.1%」の売上が増加いたしました。その結果、売上高は14億5千8百万円(前年同期比1.3%増)となりました。

薬粧事業では、主力製品の「強力わかもと」の売上が減少し、その結果、売上高は7億8千6百万円(前年同期比1.8%減)となりました。

特販事業では、輸出用原料薬品等が減少しましたが、国内向け他社受託品が増加いたしました。その結果、売上高は5億9千6百万円(前年同期比12.0%増)となりました。

#### (2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

#### (3) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における当社の研究開発活動の金額は2億5千3百万円であります。なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	120,000,000
計	120,000,000

## 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成28年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成28年8月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,838,325	34,838,325	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら 限定のない当社 における標準と なる株式であ り、単元株式数 は1,000株であ ります。
計	34,838,325	34,838,325	-	-

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
平成28年4月1日～ 平成28年6月30日	-	34,838,325	-	3,395,887	-	2,675,826

## (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

平成28年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 107,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 34,265,000	34,265	-
単元未満株式	普通株式 466,325	-	-
発行済株式総数	34,838,325	-	-
総株主の議決権	-	34,265	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権の数3個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成28年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
わかもと製薬株式会社	中央区日本橋本町二丁目2番2号	107,000	-	107,000	0.30
計	-	107,000	-	107,000	0.30

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当第1四半期累計期間における役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、京橋監査法人による四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がないため、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

## 1【四半期財務諸表】

## (1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,521,236	2,469,131
受取手形及び売掛金	3,493,665	3,825,712
有価証券	406,539	406,545
商品及び製品	1,744,653	1,540,162
仕掛品	329,008	386,952
原材料及び貯蔵品	574,586	574,304
繰延税金資産	324,427	246,733
未収還付法人税等	26,667	29,724
その他	138,399	112,140
流動資産合計	9,559,183	9,591,408
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	7,882,569	7,921,904
減価償却累計額	4,405,871	4,468,317
建物(純額)	3,476,698	3,453,586
構築物	281,277	281,597
減価償却累計額	223,579	225,881
構築物(純額)	57,697	55,715
機械及び装置	7,834,765	7,789,977
減価償却累計額	7,140,824	7,158,116
機械及び装置(純額)	693,940	631,861
車両運搬具	45,461	45,461
減価償却累計額	26,417	27,766
車両運搬具(純額)	19,043	17,695
工具、器具及び備品	881,165	889,378
減価償却累計額	758,834	769,123
工具、器具及び備品(純額)	122,331	120,255
土地	341,552	341,552
建設仮勘定	52,840	62,840
有形固定資産合計	4,764,104	4,683,507
<b>無形固定資産</b>		
特許実施権	300,000	300,000
特許権	585	555
ソフトウェア	151,807	138,640
その他	3,888	3,863
無形固定資産合計	456,281	443,059
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	2,721,725	2,426,600
保険積立金	504,178	507,936
繰延税金資産	3,405	120,996
その他	274,461	263,467
投資その他の資産合計	3,503,770	3,319,000
固定資産合計	8,724,156	8,445,567
資産合計	18,283,340	18,036,975

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,031,455	1,059,478
短期借入金	428,000	416,000
未払法人税等	10,116	13,431
未払消費税等	22,952	74,240
賞与引当金	241,000	96,432
返品調整引当金	9,000	5,000
その他	828,243	962,838
流動負債合計	2,570,767	2,627,422
固定負債		
退職給付引当金	1,218,284	1,191,879
長期借入金	360,000	320,000
長期預り金	167,729	166,790
その他	11,737	10,937
固定負債合計	1,757,751	1,689,606
負債合計	4,328,518	4,317,028
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,395,887	3,395,887
資本剰余金	2,675,828	2,675,828
利益剰余金	6,869,293	6,850,523
自己株式	30,128	30,489
株主資本合計	12,910,879	12,891,749
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,043,942	828,197
評価・換算差額等合計	1,043,942	828,197
純資産合計	13,954,822	13,719,946
負債純資産合計	18,283,340	18,036,975

## ( 2 ) 【四半期損益計算書】

## 【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)
売上高	2,818,346	2,885,651
売上原価	1,164,857	1,332,435
売上総利益	1,653,488	1,553,216
販売費及び一般管理費	1,526,529	1,427,503
営業利益	126,958	125,713
営業外収益		
受取利息	40	7
受取配当金	21,968	23,301
その他	9,660	3,850
営業外収益合計	31,669	27,159
営業外費用		
支払利息	2,586	1,977
固定資産除却損	0	2,221
寄付金	10,152	7,656
為替差損	-	10,090
その他	1,127	35
営業外費用合計	13,865	21,981
経常利益	144,762	130,891
税引前四半期純利益	144,762	130,891
法人税、住民税及び事業税	10,200	5,200
法人税等調整額	44,466	40,268
法人税等合計	54,666	45,468
四半期純利益	90,095	85,422

【注記事項】

(会計方針の変更)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる影響は軽微であります。

(追加情報)

(ロイヤリティーに関する受取技術料の計上区分変更にもなう表示方法の変更)

従来、「営業外収益」に計上しておりました当社の研究開発の成果に基づくロイヤリティーに関する受取技術料は、前第3四半期累計期間から「売上高」に含めて計上しております。

この変更は、今後、研究開発成果のロイヤリティー収入について、製商品の販売と同等の重要性を持って注力する経営方針であること、また、今後、売上高として計上している海外導出にもなう受取技術料と一体化した収入が発生する可能性が予測されるために行うものであります。

この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期累計期間の四半期財務諸表の組替えを行っております。この結果、前第1四半期累計期間の四半期損益計算書において「営業外収益」の「受取技術料」に表示しておりました32,510千円を「売上高」として組替えし、受取技術料は重要性が減少したため「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。

また、「営業外費用」の「その他」に表示しておりました受取技術料に係る費用(1,400千円)を「販売費及び一般管理費」として組替えしております。

なお、セグメント情報に与える影響については、当該箇所に記載しております。

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

## (四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
減価償却費	175,625千円	156,451千円

## (株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年6月30日)

配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成27年6月23日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	104,226千円
1株当たり配当額	3.0円
基準日	平成27年3月31日
効力発生日	平成27年6月24日
配当の原資	利益剰余金

当第1四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

平成28年6月22日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	104,192千円
1株当たり配当額	3.0円
基準日	平成28年3月31日
効力発生日	平成28年6月23日
配当の原資	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期 損益計算 書計上額 (注)2
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,440,560	800,257	532,277	2,773,095	45,250	2,818,346	-	2,818,346
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,440,560	800,257	532,277	2,773,095	45,250	2,818,346	-	2,818,346
セグメント利益又は 損失( )(注)3	200,051	181,803	131,398	113,149	13,808	126,958	-	126,958

(注)1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 表示方法の変更にともない、「売上高」及び「セグメント利益または損失」の組替えを行っております。この結果、特販事業で32,510千円売上高が増加し、31,110千円セグメント利益が増加しております。

当第1四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期 損益計算 書計上額 (注)2
	医薬事業	薬粧事業	特販事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	1,458,941	786,174	596,000	2,841,115	44,536	2,885,651	-	2,885,651
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	1,458,941	786,174	596,000	2,841,115	44,536	2,885,651	-	2,885,651
セグメント利益又は 損失( )(注)3	158,636	143,493	126,909	111,766	13,947	125,713	-	125,713

(注)1. 報告セグメントに含まれない「その他」の内容は、不動産賃貸業であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と一致しております。

3. 法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を当第1四半期会計期間に適用し、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。これによる、セグメント利益又は損失に与える影響は軽微であります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円59銭	2円46銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	90,095	85,422
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	90,095	85,422
普通株式の期中平均株式数(千株)	34,741	34,730

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

当第1四半期累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年 8月 8日

わかもと製薬株式会社

取締役会 御中

京橋監査法人

代表社員 公認会計士 小宮山 司 印  
業務執行社員

代表社員 公認会計士 荒木 勝己 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているわかもと製薬株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第122期事業年度の第1四半期会計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成28年4月1日から平成28年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、わかもと製薬株式会社の平成28年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。